

・・・今日も快晴!・・・
トラックドライバー
日誌

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤めるスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

第5話
原因の振り返りが
事故ゼロへの道



この度は私のせいで...

皆さんにご迷惑をおかけしてしまい...!

細木 剛 (38)
 明るい性格で社内のムードメーカー的存在。ベテランドライバーと呼ばれる年齢になり何でもこなせるようになってきたが、まだまだおっちょこちょいな面も...

本当にずびばべん!
 連続無事故記録
 560日も
 途切れちゃダメ!

細木先輩
 落ち着いて
 ください!

まあまあ
 相手の方も
 細木さんも
 よかったよ

ケガがなくて
 うん

その通りでも
 しっかり原因は
 突き詰めて

再発防止に向けて
 話し合いを
 しなければですね

それでは
 ドライブレコーダーの
 映像を
 見てみましょう

細木さん
 補足説明を
 お願いします

信号待ちを
 していた場面で
 ギヤを戻してなくて...

サイドブレーキを
 使わず
 フットブレーキだけで
 停まっていたんですが
 踏み込みが甘く...

え〜と...

「あの商品
 積んだっけ?」
 と心配になって
 しまつて...

そうなんです...
 午前に向った
 お店で待機になり
 積み込みの時間が
 遅れ気味で...

あわわ

確かに私も
 そんなときが
 あります
 急いで出発
 しました?

そしたら...
 あっ

コッソ

ちゃんと前を見てたら
 追突前に
 止まれたわよね

はい...

何か他のことを
 してたの?

実は手元で
 伝票を
 見ていました

速水さんは
 何気なることは
 ありますか?

前車との
 車間距離が
 少し短いな...

俺は普段
 もう少し長く確保して
 停止しているからな

「前のめり運転」で
 視界が狭くなり
 車間距離が
 短くなったのかも

焦りによる

は、

皆色々な原因が
 見えてきましたね

事故には必ず原因があり
 それが複数重なったときに
 事故が発生しやすくな
 ります!

停止と確認の
 安全の基本ルールを
 いまいちど忘れずに!

反省すべきことは
 しっかり反省して
 今日からまた
 事故ゼロを
 継続していきましょう!

社長

はい!

カッ

カッ

カッ

次で「事故ゼロを目指す方法」を解説!



事故が起きてから叱る
「事故待ち指導」

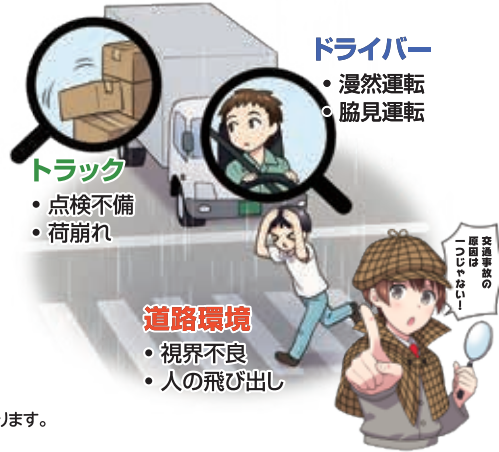


事故を事前に予測して教育する
「かもしれない管理」をしましょう

「事故待ち指導」では、事故の「真の原因」が解明されず再発の恐れがあります。
事故を事前に予測して教育を行う「かもしれない管理」に努めましょう。

事故原因を振り返ることが安全への第一歩

交通事故は、複数の原因が重なって発生しています。
事故を振り返り、原因を探ることが安全への第一歩です。



ドライバー

- ・漫然運転
- ・脇見運転

トラック

- ・点検不備
- ・荷崩れ

道路環境

- ・視界不良
- ・人の飛び出し

油断が招く「交通事故原因の四重奏」

①確認をしない ②停まらない ③車間距離が短い ④速度が速い
が原因の交通事故を防ぐには、「安全な停止」と「確実な確認」を継続することが大切です。



マンガ制作: ad-manga.com

事故原因の振り返りが安全の教科書を作る

事故事例を参考に、事故ゼロを目指しましょう。

「停止してから確認」が基本

ドライバーにとって、短期的に事故を起こさないことは、それほど難しくありません。しかし、無事故を何年も「続ける」ことはとても難しくなります。
安全は基本を守る「こと」から始まります。「これくらいなら大丈夫だろう」と安全の基本を軽視すると、危険はすぐ側に寄ってきます。「①確認をしない、②停まらない、③車間距離が短い、④速度が速い」は、「交通事故原因の四重奏」と呼ばれるもので、「これでもかー」と思うくらい「停止と確認」に「かわる」ことが無事故を「続ける」ことにつながります。

事故ゼロに向けた努力の「継続」

プロドライバーの全員が完全無事故を目指しているはずですが、しかし、多くのドライバーが実際に事故を起こしてしまっています。そして、事故が発生した後で、「あれを守っていたらよかった」「指導されたことを続けていればよかった」と安全のルールを怠ったことを悔やみながら、事故内容を報告書に書き込んでいます。怠れば悔やむであろう安全のルールを事故が発生する前に実践し、継続する努力を重ねることが事故ゼロに近づける最善の方法です。

事故事例を参考に、事故が起こる「かもしれない管理」を

交通事故の発生には必ず原因があり、原因が複数重なった時に1件の事故が発生します。「事故を憎んで人を憎まず」の考え方から、事故発生時にドライバーを厳しく叱るのではなく、原因を深掘りして「真の原因」を探り当て、具体的な安全対策を立てることが大切です。
事故の多くは過去に類似の事例があり、ほとんどが再発といえます。管理者は事故報告書や事故統計を安全教育に活用することで、再発防止に活かすことができます。
例えば、自社における過去の事故から原因を知り対策を講じることができれば、事故事例は貴重な「安全の教科書」になります。さらに、インターネットでも閲覧できる他社の事故事例を参考に、安全ルール作りに活用すれば、それは「安全の参考書」になります。つまり、事故を事前に予測して安全教育を行う「かもしれない管理」が重要なのです。一方、事故が起こってから注意を促す「事故待ち指導」では再発防止の効果は期待できません。事故を起こしたとて起きているドライバーはいません。誰かの経験から学ぶことは安全の知識を高める最高の機会なのです。